

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



梨畑の春(世羅)

おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりがおつとめに真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加

立教170年
4月号

学	生	層
育	成	者
講	習	会

大教会では去る立教百七十年二月二十一日(水)、月次祭の祭典講話として本部学生担当委員会委員の横山常明先生(八木大教会長)をお迎えして「学生層育成者講習会」を開催しました。以下先生のお話の要点を掲載させていただきます。

(学生担当委員会委員長 吉岡 誠一郎)

○立教百七十年という節目の年は、次の塚への歩み出しの時。具体的には「教祖百三十年祭」への幕開けの年であり、十年後の年祭の御用の上に働ける人材育成の年明けでもある。おちばでは「道の後継者講習会」が開催される。しかしその対象からはずれる二十歳以下の学生層も十年後は大きな働き手となるべき人達。だからしっかりと丹精していかねばならない。

○学生層育成にあたって心にとめておきたい若者の特徴

いつの時代も「今の若い者は云々」と言われてきた。しかし外見がその内面や人格を決定付けるものではない。学生のことかわからなければ、知ろうとすることが必要だ。

小学校までの子供は物事の価値観、善悪や好き嫌いの判断は親の持っているものをそのまま受け入

れる。しかし中学生・高校生になると、この価値観を再構築したり新しい価値観を求めようになると言われている。無批判に受け入れていた価値観を見直す作業を始める。自我に目覚める十五・十六歳頃は、人格を形成していく上で非常に大切な時期にあたり、この時期に生涯を通して物の見方・考え方が培われる。「宗教的回心」がある時期、神様を感じる事が出来る時期。

○自分の家がどうしてお道に引き寄せられたのか、入信の元一日を知らない学生が多い。しかしこれがわからないと、一体何の為に信仰しているのか、どうして自分はこの教会に繋がっているのかということとはわからない。信仰する親として子供の疑問を解いてやること、少なくとも青年になるまでに自分の家の信仰の歴史を、また何をどう悟って信仰しているのかということ、改めて子供に対して教えてやらなければならぬ。子供は理屈を言いながらも反発しながらも聞いている。聞く気がなくとも耳に入ってくる。後継者育成には親の信仰姿勢が大事で、その中でも道の台と言われる母親の子供への影響は非常に大きい。

○十五・十六歳になると自分の心を見つめだし、

親の姿を見ては反抗したりする。そうした子供の心の状態を注意深く観察しながら、ここぞと思うときに信仰の元一日、親の信仰信念を子供たちに伝えてやらなければわからない。それが出来てい

ないのが今のお道の現状ではないだろうか。

○我々は、少年会までは子供を一生懸命育成する。しかし高校生になれば、クラブが忙しいだろう、大人の言うことなんて聞かないだろう、と勝手に思いこんで放ったらかしにしていけないだろうか？ こともおちばがえりて帰参する少年会員がどれくらい学生会に繋がっているだろうか？ 少年会でもこのことを意識して「わかぎ」即ち中学生の丹精に力を入れている。少年会から学生会そして青年会・女子青年へと年齢と共に進んでいってもらえるようお道ぐるみで、教会ぐるみで取り組むことが大事だ。



○教会を賑やかにするには、学生層で切れてはならない。十五歳という年齢は「おさしづ」に「小人く」は十五歳までは親の心通りの守護と聞かす、十五歳以上は皆めんくの心通りのや(明治21年8月30日)とあるように子供から大人へと独立立ちしようとするときで、次ぎに満十七歳では別席を運ばせていただけるようになる。是非勧めさせていただきたい。

○思春期は仲間を求めるときで同じ環境、同じ境遇の子を求めて一緒になって現実を克服しようとする。そこで学生会の行事で仲間と共に育成することが大事になってくる。そして現在、各校区の学生担当委員会で推し進めているのは「高校生のつどい・まなびば」。これを通して、教祖のお心を少しでも学びとってもらって信仰信念を育んでもらいたい。

○毎年三月二十八日には「春の学生おぢばがえり」を開催している。昨年立教百六十九年は「教祖百二十年祭 学生

おぢばがえり大会」と称して

十年に一度の大会を開催させていただき、過去最高の九千名を越える学生が帰らせていただいた。この勢いで本年の「春の学生おぢばがえり」もこの数字に近いご守護を頂戴したく、皆様方のお力添えをお願いしたい。この「春の学生おぢばがえり」は道に繋がる全ての学生がおぢばに帰り集い、真柱様から頂戴するお言葉を、学生の指針として今後の成人を誓い合う場である。式典

後の「直属アワー」では各校区から参加した学生が、同じ直属に繋がる学生として集まることの出



来る場で、各直属でいろんな企画をし、大教会長様と学生達が直接触れ合える貴重な機会。また「夕づとめ」後の「後夜祭 春まつり」では、学生達が「模擬店・ステージ」このようなものを行ない、学生同士の交流を持つことが出来る。

○三月三日から九日までは「学生生徒修養会・大学の部」が開催される。これは四百名程の学生が、午前中は講義、午後はおてふりや鳴り物練習といった修練の時間。グループ単位で行動し、

各グループには男女一名ずつのカウン

セラーがつく。昨年参加した四

百六十八名のうち百六十九名が二回目以上の参加者。私は「みのり塾」の塾長として七十人の学生を預かった。中でもメインの行事は「にをいがけ」。学生たちはこの日を目指して心を研ぐ。午前と午後に分かれて路傍講演と二人一組で戸別訪問。

にをいがけの前日に「私たちにをいがけ」をい

てきて下さるから何も心配することはない。教祖と共に歩かせていただく。教祖

のいちれつの人間をたすけたいという思いを私たちが代わりに伝えさせていたどうか」と話をする。

学生なので路傍講演をして戸別訪問先で勇気を出してインターホンを押してくれさえすればよいと思っていたが、ほぼ全員の六十七人がおさづけを取り次がせていただいた。教祖と心を合わせる、心を通わせると不思議な姿を必ず見せていただけるんだということを学ばせていただいた。常に教祖を心に感じながら日々通らせていただくことの大切さを目の当たりにした。学生たちは人の為に祈るといふ誠実を使ったことである不思議を見せてもらった。信仰実践によって教祖を信じることができ不思議を見せていただけ。

○夏休みの八月九日から十五日までは「学生生徒修養会・高校の部」がある。これは学校での授業と各寮での行事に分かれている。学生達にとってこの学修とは何だろうか？ テレビも見れない。自分の食べたいものも食べられない。朝は早く起きなければならない。時間どおりに動かなければならない。暑い中を歩かなければならない。普段の生活と比べると最悪の環境にもかかわらず、また来年も学修に参加したいと言ってイキイキしている学生担当委員会では「HARP」という手法を使う。これは心を目覚めさせるレクリエーションのプログラムという英語の頭文字をとったもので、学修ではグループごとにプログラムを通していろいろと語り合う。学生時代は人の話を中々聞かず、自分の考えが最優先しがちだが、「HARP

P」という手法では、いろいろな学生の意見を聞き自分も意見を述べたり思い悩んでいることを話すなかで、純粋に自分の心を見つめ、自分の心を謙虚に白紙に戻すことが出来る。自分の心を見つめる、謙虚になるということは、信仰する上で非常に重要で近道だと思う。天理教の見方が学修で変わったという学生も多い。

○学生会の活動に参加することによって、彼ら彼女らは本当に変わる。仲間が変えてくれるということを感じていただきたい。

○毎年天理高校で野球をしたいという学生が尋ねてくる。M君も天理高校で野球がしたいとやって来た一人だが芽が出ず、高校三年のときに学生会に初めて参加した。友達に励まされながら、共に活動しながらお道のことを学び、天理教のことと何も知らなかったM君が、



大学二年生のときに奈良教区学生会委員長をとめるまでに成人した。教区学生会の総会前日にスタッフの女の子が熱を出した。彼は「この子を台にしてスタッフが一手一つになれ」との親神様のお仕込みだと悟るまでになり、私はとても驚いた。私は野球の試合には来る

ようにと言ったことはあっても「一手一つ」とか「台」とか一度も教えたことはなかった。彼をここまで育ててくれたのは学生会であり、学生達だった。今は教員となり月次祭の日も仕事が終われば、参拝に来てくれる。元旦祭にはおつとめ衣を着てつとめてくれる。これからは、私がしっかりと丹精させていなければならぬと思う。

○明治二十六年六月十九日の「おさしづ」に「若い者寄り来る處厄介、世界から見れば厄介。なれど道から厄介ではない。道から十分大切。道は遠かるが言わん。たすけ一條

という。これ聞き分け。十のもので九つ半大切にして、半分だけ出けん。十のものの半の理で九つ半まで消す。よう聞き分け」とある。若い者が寄り来る處厄介と思うであろうが、道の者は厄介と云ってはならぬ。大切に育ててやってくれ。

遠い處の者と言っではいかん。これも大きいおたすけである。おたすけを十とすれば事情・身上たすけは九分半や。後継者を育てるのはただの半や。それで九分半だけ大切に

なければ折角の繁栄も一代限りで終わりとなるのではないか、という内容のもので、学生層の育成の上で非常に関わり深い「おさしづ」である。若い者が寄って来たら厄介ということは神様もご存じで、しかし厄介というのではなくおたすけなんだということを中心に治めることが大切。

○平成十九年度の活動方針として「お道の素晴らしき、教祖の御心、たすけ心を学生へ」との合言葉のもと「学生一人ひとりに親身に声を掛け続けよう」ということで活動を進めている。学生層の育成は学生担当者だけがすればいいものではなく、教会長・奥さん・よふぼくと大人が全員でかかわらなければならない。「はっぴすと」という高校生向けの月刊誌を毎月渡すのもひとつの方法。彼らは、自分が必要とされているということがわかれば必ず反応してくる。真剣に思ってやっ

わってくるとわかれば応えてくれる。学生への働きかけは「おたすけ」だと親神様から聞かしていただく。教祖の御教えを皆さんの信念で学生に対してぶつけていってほしいと思う。

○そして、本部主催の行事或いは教区での学生会行事に参加するよう積極的にお声掛けをお願いしたい。学生が学生を育ててくれて、必ず変わっていく。道の後継者育成を楽しんでいただきたい。そしてみんなで育てるんだという意識をもったいただきますようお願いしたい。《以上、要約》

◆第3回大教会長杯親睦大ソフトボール大会

*大教会長様から「笠岡内でブロックを越えた親睦を深める会を開いて貰いたい」という思いで始まったこの大会も、今年で第3回目を迎えます。今年は遠方の人も参加出来るようにとの思いで4月22日、月次祭の次の日の日曜日を選びました。

昨年は8チームがエントリーし150名ほどの人が集まり賑やかな大会を持つことが出来ました。今年も、多くの方々が参加出来るよう、1チームに会長さん、50歳以上の方、女性の方、少年会員も必ず入るようになっていきます。尚参加お供えは中学生以上一人500円となっています。体力に自信のある方も無い方も奮ってご参加下さい。



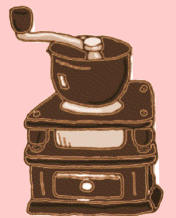
【大会スケジュール】

- | | |
|---------|---|
| 8 : 30 | 大教会集合（それぞれで参拝をしてグラウンドに向かう）
グラウンドにて 開会式
遙 拝
大教会長様あいさつ
競技説明
選手宣誓 |
| 9 : 15 | プレイボール
昼食（11:00～13:00）
——うどん・パン・おにぎりを用意いたします。 |
| 15 : 30 | 閉会式 成績発表
表彰式
挨拶
遙 拝 |

【詳細】 下記へお尋ね下さい。

- | | | | |
|-----|------|---|-------------|
| 直轄1 | ブロック | : | 大教会神事所 |
| 福山 | ブロック | : | 福島大介さん(福満分) |
| 高屋 | ブロック | : | 秀平元一さん(高屋分) |
| 島根 | ブロック | : | 門脇元教さん(島根分) |
| 久松 | ブロック | : | 中村剛史さん(久松分) |
| 直轄2 | ブロック | : | 横山逸郎さん(東城分) |
| 府中市 | ブロック | : | 山田敏教さん(甲井分) |

談話室



教会長講習会に参加して

弓ヶ濱分教会長 森川 弘志

去る二月二十六日、二十七日の二泊二日で、笠岡詰所において開催された、立教百七十年教会長講習会に参加させて頂きました。

今回が初めての参加でしたが、大変貴重な経験をさせて頂き、心から良かったと実感しております。新米会長だから言える事かも知れません。二回目、三回目と回を重ねる毎に受け取り方が変わってくるかと思いますが……。

講習会の内容は『次なる成人の塚教祖百三十年祭へ向かう門出の年、教会の活動の最大の任務であるおつとめと布教の充実を目指し、ご存命の教祖にお喜び頂ける成人をさせて頂く』と言う趣旨にそった「講話・質疑応答」、「班ごとのねりあい・全体発表」の日程で、ともに予定された時間を超過する熱のこもった講習会でした。

初日の福西先生の講話では『おつとめと布教活動の充実』というテーマで、自らの信仰の元一日

から教会設立までの道中で実践して来られた体験談を、ユーモアを交えて、優しく丁寧にお話し下され、涙を誘う場面も多く、気迫のこもった内容にとっても感動いたしました。今後のにほいがけ、おたすけの実践活動の一助にしたいと思います。

初日夕食後のねりあい①では、『百二十年祭の反省・講話について』のテーマが始まりました。

班の中で九人の中私だけが会長経験五

ヶ月の新米会長であり、他は数十年の経験豊富な会長さんばかりでした。進行係りの一声で私が記録

係りをおおせつかり、和気あいあいの中でねりあいが進められました。内容は割愛しますが、

テーマに関しては控えめに話される会長さんが多く、話題が横

道にそれると、オフレコも含めてあちこちに話しが飛び交い、賑やかな中に終了予定時間を超えていました。

こう言うねりあいもいいものだな？

さて、二日目のねりあい②では、『大教会長様の念頭のあいさつ、おつとめ奉仕者のご守護を頂くについて』がテーマでした。

朝夕の掃除・献饞・おつとめ、の仕方から、祭典日の様子、祭典講話の役割、お勤めの練習日の有

無、人を育てるには等に関して、進行掛りの巧み

な話術で、全会長さんから意見を引き出し、意識の高揚に繋げて行かれたのは、さすがベテランの会長さんだと感銘いたしました。十年後には必ず一人以上増のご守護を頂きたいと、私自身改めて心に誓わせて頂きました。

講習会最後のねりあい全体発表では、私も班の代表として発表させて頂きました。何もかも初めての事でしたが、大変有意義な講習会

だったと心から感謝しております。

終わりになりますが、ねりあいの中で「パンフレット配りは自己満足に過ぎない」との声がありました。経験を積み重ねればそうなのかも知れませんが、今の私はそこから始まりだと思っています。今

まで出来なかった事、しなかつた事を実行すること意義があり、世間に出て行って何かにつ

らない限り、何も見えて来ないと思うから動くのです。短期間で結果を求めているのではなく、一歩一歩勇み心で前進して行きたいと思

います。お聞かせ頂く『世界いちれつ救いたい』の思し召しに出来るべく、救け一条の御用の上に勤め

励ませて頂くことが、教会長としての使命であるとのご教示を胸に……。



教会長講習を振り返って

陽備分教会長 虫明 立生

二月二十六日から二十七日にかけて、大教会長様始め、布教部の諸先生の主催下さった教会長講習会に教会長として初めて参加させて頂きました。講話、練り合い、廻廊ひのきしん、おちばに於いてのおつとめなど、笠岡につながる教会長が、身上、事情の人を除いて詰所に集まりましたが、その時、全く知らない先生方の多さにまず、驚きを感じました。

今迄、いろんな講師の方のお話しを聞かせて頂き、その度に、すばらしい話しだなと、感激しておりましたが、いつも、それは、その時だけのものでしたが、福西先生のご講話は、私の魂に聞かせて頂いた様に思いました。

何よりも、親神様、教祖様に素直に心を寄せ、もたれ切って、順序を踏み外す事なく、たすけ一條に、何の見返りも求める事なく、澄み切った心で通った事こそ、本来のお道の在り方、姿である事を深く心に焼き付けられたと、今迄とは違った思いで、聞かせて頂く事が出来ました。今迄が、如何に、こうまんな心で、理屈に納得しなければ、行動に移せなかった自分であった事への反省の念で、悔やまれる思いで一杯でした。福西先生の通っ

て来られた道中は、もとより、そうした魂を頂いた親が、如何にすばらしかったのだろうと、そちらの方に、すごく関心を持ったのも確かです。この講習会を通じて、改めて、我が身都合を優先せず、このお道の教えを素直に通らせて頂く事で、今迄より、少し広く人を見る目が養われた様に思うし、勇んで毎日を通る事が出来る様にも思えます。練り合いに於いては、今の、それぞれのお道に対する考え方の相違にも、気づかせて貰いました。それぞれの教会の内情、それぞれの通って来られて培った信仰の思い方を、いろいろと勉強させて頂き、現在の、天理教の在り方を考えさせられる講習会でもあった様に思います。

私は、いつも大切な人の出直しによって気づかせて頂く事が多いという事を思案する時その人達の分迄、魂を担っている、その人達の思いを無にする事なく、しっかりとした親神様の懐住まいの中、教祖様の親心にもたれ切り、初代がつけてくれたこのお道に感謝し、先輩方の温かいご指導に支えられて少しでも成人させて頂ける様、通らせて頂かなければ申し訳ないと思っております。

先日、我が青年会の遅ればせ乍らの新年会を当教会でさせて頂き、私の至らない道中を見ているのにもかわらず、教会長になったんだから、皆で、御礼団参に青年会としておちばに行こうとある信者さんが声を出して下さり、それから、うち

の弟もできる

だけ月次祭

にはつとめ

ると言ってくれ、今月

ちゃんつとめてくれました。

少年会の育成委員長も自分

がやるという信者さん

もできました。これも

陽備の青年会の

前委員長さんの

出直しという姿

の中に、皆の心が

一手一つにならせて頂け

たのかなと、心から御

礼申し上げます。

誠真実の心には、まだ

まだ届きませんが、この

お道を生涯かけて通らせて

頂く事で、少しでも、

いんねん納消につとめる

覚悟ですので、どうぞ

よろしくお願い致します。





素直な自然体で

川島郷分教会長 香取雅人

「キッズひのきしんクラブ始動!」との見出しで大きく天理時報に取り上げていただいたのが、もう4年も前のことになりました。別に意識したわけではありませんが、その年がまさに教祖120年祭活動三年千日、門出の年だったので、結果的に旬の動きに乗せていただき様々なご守護を頂戴できました。たとえば、当時中学生だった子どもたちがそれぞれによぶくへと育ち、おつとめを着つけて祭典をつとめてくれるようになりました。

また、少年会の様々な行事では、年下の少年会員たちの面倒を見てくれるようになり、本当に有難いと思わせていただいております。私どもの教会は、今でもそうなのですが、全教に1万7千いくつがある教会の中でもその勢力と内容を考慮すると、下から数えたほうが早い「青息吐息」ならぬ「青色吐息」の教会ですので、この自転車操業のような現状を打破するためになんとかしなければならぬといつも考え、行動に移しております。

かと言ってあまりハードな行動を起こすと息切れがして続かなくなる恐れが大いにあるので、できるだけ素直な自然体でできる活動を心掛けていきます。このような考えをベースにして家族と相談した結果、発案したのが前述の「キッズひのきしんクラブ」です。

お陰様で今では毎月20人から30人くらいの参加者があり、楽しみながらひのきしんをさせていた

「キッズひのきしんクラブ」のお知らせ 「みんなで楽しもうマジックショー」

【時間】 2月18日(日) 午前10時～お昼ごろ

【内容】 地域の清掃とみんなでするマジック



手品の道具がある人は持って来て下さい。上手な人がいたら連れてきてください。



【会費】 100円 *詳しくは 天理教川島郷分教会 Tel(528)0850(香取)まで

だいておりますが、最初の問題はネーミングでした。

というのも、もし『天理教川島郷分教会少年少女ひのきしん練成会』などと名づけたら残念ながらそこでアウトですね。こどもたちは聞いただけで「イヤだな」と拒否反応を起こしてるのに、会長さんが「ヤイヤイ」言うので「イヤイヤ」来

たという子どもたちしか参加しないだろうし、余りくだけた名前も付けられない。しかし、「ひのきしん」という言葉は是非入れたい。ボランティアなどというヨソモノの言葉より遙かに素晴らしいお道の言葉を子どもやその親に伝えたい。しかもソフトな響きを持ち「行ってみようかな」という気を起こさせるような名前はないか……。『そうだ、キッズがいい』少年少女の代わりに子ども達を表す英語の「キッズを使おう」と、思いついたわけです。

スケジュールと行事内容

代表的なスケジュール

毎月第3土曜日または第3日曜日の午前十時開会、参拝、簡単な教話。ひのきしん(近所の清掃)、お楽しみ行事、昼食、後片付け、1時ごろ解散。

今までの行事内容

教祖ご誕生祭り、手打ちうどん作り、地味なマジックショー、春を摘もう!七草がゆ、海岸での宝探し&自然観察、山の公園での宝探しやゲーム、ビーチバレー、ビンゴ大会、スモークトフード(煙製)作り、作って遊ぶ、割り箸クラフト、夏休み手作り工作、バルーンアート、手作りゲーム、ウォークラリー、自然観察ビンゴ、卒業祝いおモチつき大会、キッズ映画会、年末大掃除など。

上記活動に対するご質問やご相談がございましたらいつでもご連絡下さい。できることがあれば、お手伝いさせていただきます。

勉強おたすけ塾

こちらの方は私が後継者のころから自教会内で近所の子どもさんたちを集め、約30年間続けており、今では教え子の2世も来るようになっていきます。小学生から高校生まで結構幅広く、算数、数学、英語を教えておりますが、文字通り「勉強のおたすけ」をする塾でありまして進学塾ではありません。しかし、保護者の様々なニーズがありますので出来る限りそのご要望にお応えできるように努力させていただいております。詳しく書きますと長くなりますので簡単に紹介させていただきますと、毎週月曜日から金曜日の夕方とおつとめの時間を除く夜間、学年別に分けて指導しています。無論お道の行事と重なるときは休みにするか、変更させていただきます。

また、特別な要望、たとえば不登校、高校中退、㊦(学習障害)、㊧(注意欠陥多動性障害)、軽い自閉症などの理由で集団学習に馴染みにくい生徒、あるいは特別な進学指導等々のような事情がある場合、私はカウンセリングの専門家ではありませんので心のケアは親神様、教祖にお凭れして、勉強に関しての個人指導をさせていただいております。

ます。

このような文面だけ見れば、自分で書いて「オー！」と、驚いています。があまり大したこともしていません。ただ、好きなことをのんびりとやっているだけです。

以上で私達の地域活動報告を終えさせていただきます。



天理時報

立教156年9月5日号

天理大学教授 上原 豊明

六月中旬、オーストラリアから、興味深いニュースが飛び込んできた。

第8回 共存共生の地球に 「国際先住民年」に寄せて



アメリカ・インディアン、戦士の栄誉礼冠(天理参考館蔵)



「先住民族の出身地を彼らの帰属にする」と高等裁判所が裁定。これに対し、国際経済学者や保守派の指導者が反発し、「国家の重要な資源を窮乏に追いやるもの。農業、鉱業が危機に陥る可能性がある」とキーティング首相に警告した。

ところが首相は、この警告を「不適當」なものとして却下。「この裁定は、白オーストラリア人と黒オーストラリア人の間に協調をもたらすもので、先住民と非先住民の共和の基礎になるもの」と発言。さらに、「人々の裏庭や農場に対して先住民の権利主張を許すものでも、開発側に先住民の所有権を無視させるものでもない」と言及。オーストラリア先住民と英国から移住して現在のオーストラリアをつくり上げた白人との間に、土地所有権を巡って新たな協調関係が築かれつつあることを示した。

これに似たことは、アメリカにもある。同国では、レザベーションという特別区域を設けて、アメリカ・インディアンの生活区域を保障してきた。ところが最近、鉱山開発をめぐり、その地が古来からの種族の宗教上の聖域であるとして開発側が訴えられる、というケースも出てきた。私の住んでいたインディアナ州でも、かつてのインディアン墓地を考古学研究機関が発掘調査していたところ、インディアン協会から「待った」がかかり、そのまま発掘が差し止められた

ことがあった。

この国ではかつて、ヨーロッパからの移住者と先住民であるアメリカ・インディアンとの間で、し烈な闘争が繰り返された。それは、血・習慣・文化の相違に根差す種族差別であり、具体的には領土や地域問題をめぐる争い。心理的には、他種族・他民族への恐怖と嫌悪、優越や劣等コンプレックスの無意識的な投影でもあったろう。

一方、アメリカでは南部における黒人差別も長年の懸案である。市民運動や連邦政府の努力により、最近やっと解決に向かい始めてはいるが、白人と黒人の間に完全な融合が生まれるまでには、まだ年月がかかることだろう。

目を世界に転じてみれば、人種や宗教、文化の違いからくる差別は、まだまだ多く見られる。イラクやトルコにおけるクルド人への差別、ユーゴスラビアでのセルビア人によるアラビア人への想像を絶する暴行、ボスニア……。日本にも、同和問題をはじめ根強い差別がある。

アメリカにおける差別問題を側にとって考えれば、多民族の集合であるため、それぞれの歴史・伝統に根差す信仰・風俗・習慣、また皮膚の色などの差異によって差別が現れた。その解決には、多数側が少数側に対する根本的理解を推し進め、相手を包み生かす「親心」のような愛を実践することによってのみ可能であろうと思える。

この少数側に対する理解とは、伝統・習慣・宗教・文化といった多岐にわたる客観的理解は当然である。さらには、相手の中に入って、相手の心情を身をもって味わう生活体験から、相互的共和感を育成しなければならないだろう。

ここで言う生活体験は、その地の人々と生活を共にし、愛と献身をもって生きていくマザー・テレサの姿にも似ている。すなわち、一度自己を捨てて相手の中に自己を生かすという生活態度においてのみ、相互的共和の生はつくられると思うからだ。

ここにおいて、お道の人は「一れつきょうだい」のお言葉を想起しよう。この世に生をうけたもの、それは一木一草に至るまで親神様のご守護を受けて、いま生を共にしているのである。人間に至っては、教祖(おやさま)の仰せられた通り「きょうだい」であり、そこに少しの分け隔てもあってはならない。しかし、われわれは、ともすればこの真理を忘れて、自己のエゴのために差別の誘惑に負け、「兄弟垣にせめぐ」目を重ねている。

世界一れつの「陽気ぐらし」を目指す道の人は、少数民族に対する差別を対岸の火としてはならない。まず自分の周りから、差別解消の歩みを「人たすけ」を通して実践していきたいものである。今年、「国際先住民年」でもある。

第 7 9 4 期 修 養 科 募 集 要 項

* 修 養 科 期 間

立教170年6月1日～8月27日

* 教 養 掛

3ヶ月間	杉原博之	(大教会役員・明石市分教会長)
1ヶ月目	時宗一実	(吉舎分教会長)
2ヶ月目	福島大介	(福満分教会長)
3ヶ月目	矢田哲一	(八尋分教会長)

* 募 集 要 項

- ・ 志願者は、6月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 5月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、8月29日の昼食後に解散。

* 教 科 書 (必須)

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

* 参 考 書 (出来れば持参)

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

* 携 行 品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

* 服 装

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一列子供陽気ぐらしを楽しみに 昼夜を分かたず 御守護、お導き下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます 分けても今は暖冬とはいえ寒さ厳しい冬も梅の花と鶯の鳴き声が光と希望に満ち溢れた春爛漫の旬に近い事を知らせてくれる等 喜び一杯の季節を迎えさせて頂いております 私共は日々成ってくる理に喜びと感謝の心を抱き 御恩報じとの思いのままに一人でも多くの人々に親心の有難さを伝えるべく 朝夕に御礼申し上げて つとめに布教にとたすけ一条の御用に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はこれの笠岡にお許し下された月毎の御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕者一同 心を一つに睦み合わせて明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて三月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には春の風を感じつつ今日の日を待ちわびて寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝み尚も変わらぬ御守護にお継りする状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今世上では多くの若者が親元を離れ一人立ちする句でもありますが 世の風潮として親離れ出来ない子又子離れ出来ない親が増えているように感じます それゆえに社会の中での善悪の判断がつかず 悪い事をして平気でいる人が多くなっている事の原因の一つになっているように思われます こんな旬ときだからこそ 親を親と知らしめ親孝心の大切さを教え伝えていかなければならないと思えます 道の後継者育成が課題の今日 若い者に限らず一人でも多くの人々に教えを伝えるべく 私共はたすけ一条の上に邁進させて頂く所存でございます

何卒親神様には親を慕い親に凭れて 親孝心一筋に艱難苦勞のたすけ一条の道を歩む皆の誠真実の状を御覧下さいまして万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 人々の心が親孝心に目覚め お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早くお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

【19】知っていますか、からだの中のこと



「体内に何があるやら、どのような者でも知っている者はあるまい」(神のことば)と言われれば、そんなことはない、と反論が聞こえてきそうです。人体・解剖図鑑もある、からだの仕組みはだれでも知ってるつもり。具合が悪くなった。内視鏡もMRI(磁気共鳴画像)法もある。どこが悪いか、すぐわかる。その上で神様は、だれも知らないとおっしゃるのです。

からだの中の自然な働きはだれがしているのか、神様の加護以外のなにものもないのです。その絶妙さに、ただただ驚くばかりです。

春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます

本席様の御霊 初代真柱様並びに奥様の御霊 二代真柱様の御霊 大教会創設の祖 上原佐吉大人八重刀自の御霊 初代会長上原さと刀自の御霊 二代会長上原伊助大人光刀自の御霊 三代会長上原繁雄大人くにゑ刀自の御霊 四代会長上原郁雄大人の御霊 笠岡の道始まりの頃より歴代会長と共にご苦労下さいました役員 部内教会長 教人 よふぼく 信者の御霊 更には昨日新たに合祀された御霊 諸々の御霊の前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

祖霊様方には 親神様教祖のお見定め 元 旬を得て早くからこの道にお引き寄せ頂かれ 生きの限りにこの道をお通り下さいましたが 決してその道は楽々の道ではなくむしろ山坂や茨ぐるうもがけ路も剣の中も火の中も淵中もと艱難苦勞の道でありました しかしそんな中 心一つは常に親に凭れ御恩報じの喜びに包まれていました 今日のお道の結構な姿をお見せ頂いておりますのも ひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜である事は申すまでもありませんが 又一つには祖霊様方のそうした真実誠の伏せ込み理作りのお陰と朝な夕なに御礼申し上げます 分けても本日は春の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので 御前に種々の旬の物を供えて 只今は親神様の御前にておつとめ奉仕者一同 寄り集いましたゆかりある人々の声高らかなるお歌の唱和と相共に陽気に勇んでてをどりをつとめさせて頂きました ありし日の面影を偲び御遺徳を称えてご生前のご苦勞に改めて御礼申し上げます

今お道は次の塚すなわち教祖百三十年祭に向け新たな成人の歩みを始めたところでございます 本部では道の後継者育成に力注いで下さっています 笠岡としても十年後を目指して全教会でおつとめ奉仕者の増員を成人目標に掲げて用木一人一人が日々神様に受け取って頂ける真実の種まきを実践させて頂いている所でございます

何卒祖霊様方にはお目怠い点多々あるかと思いますが 御心放たず温かくお見守り下さりたすけ 一条の上に多大なお力添えを賜りまして旬の歩みに相応しい成人の姿を御守護頂けるようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先

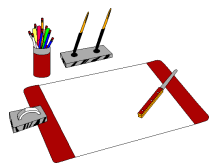
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

F A X：0865-66-1314

メール：tenkasa@kcv.ne.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



大教会だより

◎第七八八期修養科

自 立教169年12月1日
 至 立教170年2月27日

三ヶ月間 田中 隆之

一ヶ月目 (福山分教会長)
 吉岡 孝彦
 (芦品分教会長)

*修了者

三ヶ月目 高橋 德行
 (亀田山分教会長)
 上下 押尾 清治
 久松 河村 景子

◎本部食堂ひのきしん

自 立教170年2月16日
 至 立教170年2月28日
 福山 岡崎 豊彦

二ヶ月目 津森 朋之
 (簸川分教会長)



とある地方競馬場の厩舎に新馬がやって来た。

新馬といえど若くない。その上、とても競走馬とは程遠いスタイル。年中、コーヒー色の顔と、やけに白い歯が対照的。笑うとなお滑稽。地方ならではの妻帯馬。ちょっと目を

離すと若いエキスを求めて

て牝馬の群れに進。そのくせ

極度の恐妻

馬。絶好調

時のクネ

クネタコ

ダンス走

法は絶品。

一見の価値

あり。

ムチの入れ

方次第では、斬新

なアイデアと抜群の機

動力を發揮し、期待大。ひそかに、厩舎長を狙っているとの噂あり。

同競馬場、最近、大改装が行われた。場内の建物にはカラフルな色が塗られ、芝も整えられて、馬場もスタンドも以前より見違える程、すっきりときれいになった。

肝心のレース内容はどうか。これまで皆で知恵を絞り、より良い物をと、努力と労力を惜しまずやってきた。結果、確かに成果は出ている。大いに評価すべき点である。

一方、他力本願的なレース展開が繰り返されてはいないだろうか。少々懸念が残る。自分達が中心になり作り出していく事で、同場独特の物が必ず出来るはずだ。観客はそれを待っている。

新馬参入のこの機会に、今一度、思考する時期に来ているのではなからうか――。

何はともあれ、次なる塚目指してのスタートの年。発想の転換と体質の改善目指し、共々に頑張っていこう。ギターエロアカシシンフォニー”くん!!”

(あ)

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌三月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「心」、選四十六句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事選ばれ掲載されましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

地位 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子

如何にせん神意心に祈る朝

佳詠 川島郷分教会前会長 香取 敏子

病む友に真実心を捧げきり

